
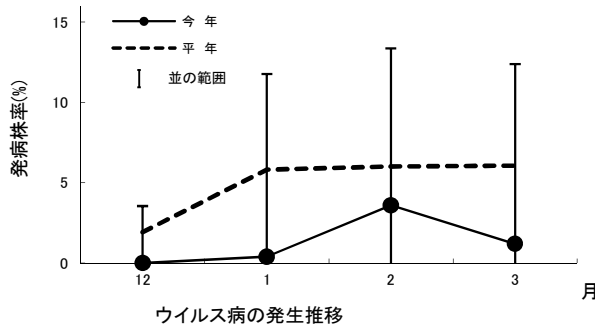


作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ウイルス病		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みであることから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

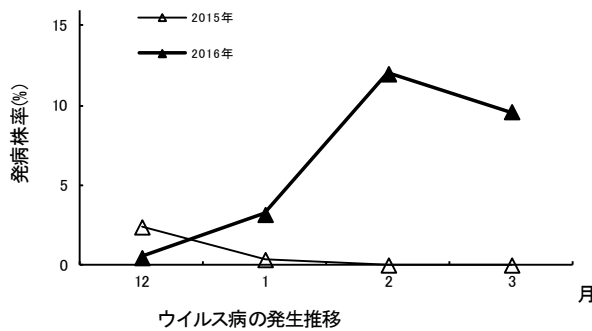
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 3月中旬の調査の結果、発病株率は1.2%（前年9.8%、平年6.1%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

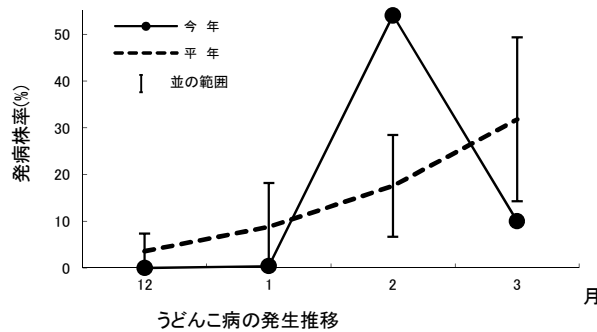
- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量（現況）	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

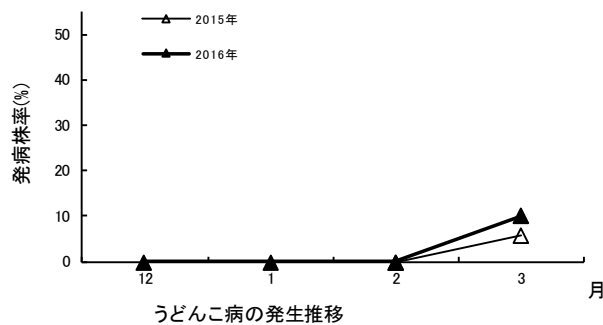
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 3月中旬の調査の結果、発病株率は10.0%（前年10.0%、平年31.8%）と平年よりやや低かった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

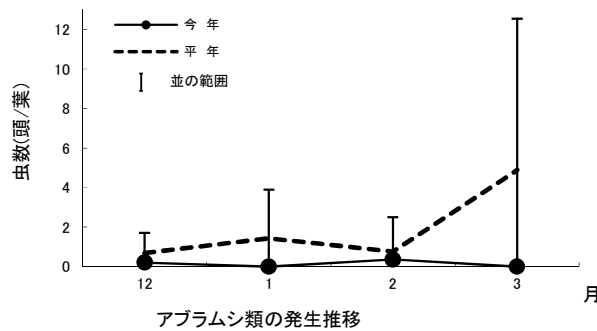
- ・ 発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 生育初期は徒長しないよう管理し、予防散布を行う。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の感染源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし) 並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。		

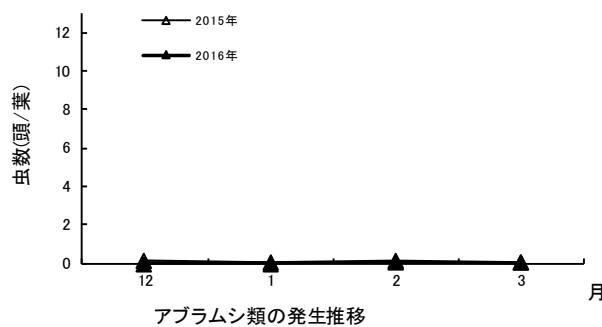
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.10頭、平年4.89頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

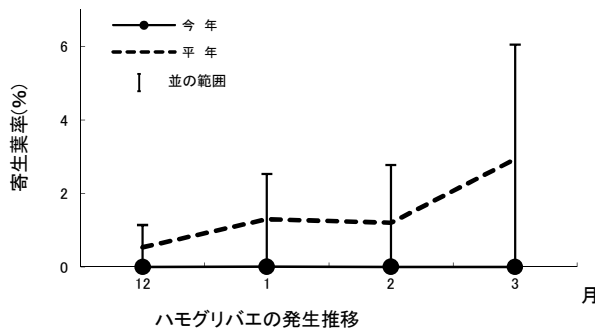
- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし) 並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

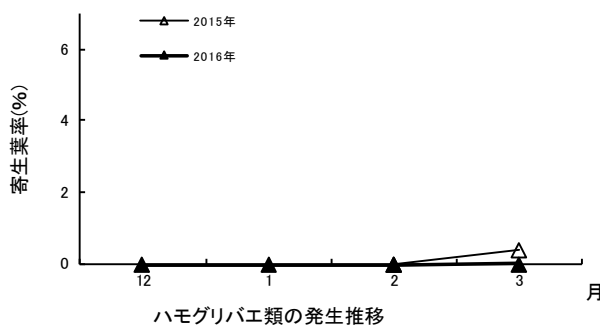
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 3月中旬の調査の結果、幼虫の寄生葉率は0% (前年0.1%未満、平年2.9%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

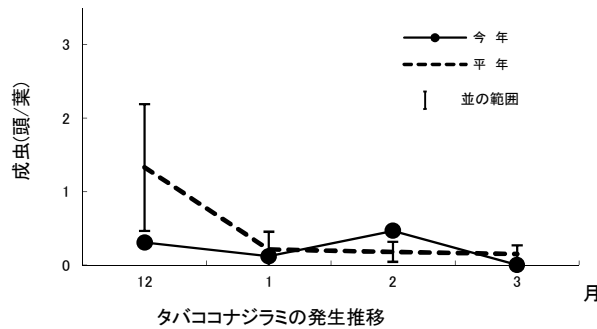
- ・ 多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 幼虫期間が比較的に短いため、葉面に産卵痕や食害痕がみえ始めたら防除を開始する。
- ・ 防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

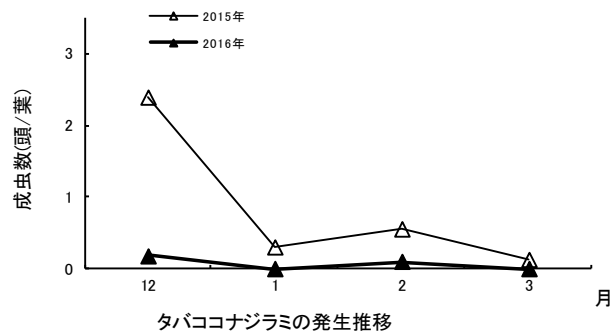
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭未満、平年0.2頭)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 多発すると白化症を引き起こし生育不良となる場合があることから、初期生育の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。